

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島郡瀬戸町24
電話 2-9772

西ノ島町の教育活動

西ノ島町教育委員会が取り組んでいる教育活動の様子を、派遣指導主事と派遣社会教育主事が紹介します。

ミニ講義の開催

西ノ島小・中学校では、昨年八月新校舎が完成し、充実した環境の中で、両校の教育が進められています。今年度は、火・木曜日に小学校へ、水・金曜日に中学校への学校訪問を実施しています。

訪問した際は、二時間授業を参観し、その後紙面で助言を返すスタイルで指導を行っています。二期からは授業者へ少しでも早く効果的に伝えられるよう、給食タイムに話し合いの時間を設定してもらっています。

また、次のようなミニ講義も実施しました。

◆西ノ島小でのミニ講義

八月一日「学習課題の作り方」習熟度の差を考慮しながら」と題し、指導主事が教員役、先生方が児童役となり実際に算数の授業を進める形で行いました。そして学習課題は「学級内の全ての児童が本時の方向性を掴める表現となっていること」「授業者のまとめと呼びつけた整合性のある文末表現となっていること」などを中心に伝えました。また、『まとめ』は、児童が次時の学習の拠り所とする大事な点であることも強調しました。

◆西ノ島中でのミニ講義

一学期に入り「学習課題の提示の工夫」と題し、教員二人と指導主事とで対面式での講義を計五回行いました。伝えたい主な内容は次の三点です。

○文末表現を謎や秘密を解くような疑問形にすると学習効果がある点○教員がまとめの場面で求めている用語等から類推して学習課題の文言を発想する点○教材と学

習課題を出す順番やタイミングこれらのことを中心に各教科の学習課題を例示しながら伝えました。

十月二十日の隠岐教研の発表に向けて、両校の先生方はとても熱心に日々励んでおられます。その一助となるよう取り組んでいるところです。

(文責 塚本)

スリー・デイキャンプ in 西ノ島

八月一日(火)から三日(木)にかけて、西ノ島町の島根鼻公園で「第三回スリー・デイキャンプ in 西ノ島」を開催しました。今年度の参加者は二十一名で、昨年度の二倍以上の子供たちが参加しました。このキャンプのねらいは「自立」「協力」「ふるさとへの愛着」であり、それぞれの力を育むためのプログラムの様子は次のとおりです。

◆自立

一人でやることができる活動として、「フコ炊飯」を行いました。



二泊三日の間それぞれの子供が、一人用のコンロと土鍋を使い、自分で食べるご飯は自分で炊くというものです。

思い通りに炊けて喜ぶ子ども、なかなか火をつけられず、途方に暮れる子どもと様々でしたが、三日間を通じて、徐々に上達してきました。

◆協力

テント設営、食事(主食以外)の準備、イカダ作りなど、それぞれの班での活動となりました。今年度は、昨年度からの継続参加の子供が多く、経験をもとに他の班員をリードする姿が多く見られました。

◆ふるさとへの愛着

最終日には、キャンプ地から保護者の待つ浦郷港までの約八〇〇メートル、手作りイカダによる航海を行いました。

残念ながら全五艇のうち一艇のみのみ完走となりましたが、残る一艇に声援を送る姿や来年度の



再挑戦を誓う姿を見ることができました。

(文責 木下)

キャリア教育

これからのような道のりを歩もうとしているのでしょうか。教職員や家族、地域の大人は子供たちの作ろうとしている『轍』をどれだけ理解・共感し、どう支援しようとしているのでしょうか。

平成二十六年七月に示された第二期しまね教育ビジョン21の基本理念「島根を愛し世界を志す心豊かな人づくり」と、次期学習指導要領前文の「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む社会に開かれた教育課程」の実現」とは共通する部分が多分にあると考えます。

その中心が「キャリア教育」です。キャリアの語源は「馬車の轍(わだち)」。人が人生を歩んでいく道のりと『轍』をかけてキャリアと呼ぶようになったようです。キャリアが子供たちの生活そのものだと考えれば、大切なのは「全ての子供が、全ての教育活動の中で、全ての道が尊重される中で行われる」ということになりす。

今年度前半、子供たちはどんな轍を作ったのでしょうか。また、こ

れからどのような道のりを歩もうとしているのでしょうか。教職員や家族、地域の大人は子供たちの作ろうとしている『轍』をどれだけ理解・共感し、どう支援しようとしているのでしょうか。

お詫び

所報八月号の記事において、「特別な教科 道徳」と表記いたしました。特別な教科「道徳」が正しい表記でした。

(文責 新谷)